

1. 略歴

1982年3月	東京大学文学部考古学専修課程卒業
1982年4月	財団法人東京都埋蔵文化財センター調査員
1988年4月	法政大学大学院人文科学研究科日本史学専攻修士課程入学
1991年3月	法政大学大学院人文科学研究科日本史学専攻修士課程修了
1991年4月	法政大学大学院人文科学研究科日本史学専攻博士後期課程入学
1994年3月	法政大学大学院人文科学研究科日本史学専攻博士後期課程修了、博士(文学)取得
1994年4月	財団法人東京都埋蔵文化財センター副主任調査研究員
1997年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助教授
1997年5月	東京大学文学部附属北海文化研究常呂実習施設助教授
1999年4月	東京大学大学院新領域創成科学研究科助教授
2003年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助教授 (新領域創成科学研究科助教授併任、2004年3月まで)
2007年4月	東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

先史考古学、民族考古学、人類環境史

b 研究課題

- (1)日本列島および東アジアの旧石器時代における石器技術論、行動論、遺跡形成論、石材論的研究。
- (2)生業・居住形態等に関する民族考古学的研究。
- (3)民俗知の環境論的研究。

c 概要と自己評価

上記の研究課題(1)に基づき実施した、科研費基盤研究(A)「黒曜石の流通と消費からみた環日本海北部地域における更新世人類社会の形成と変容」(09～13年度)の成果をまとめた『晩氷期の人類社会: 北方狩猟採集民の適応行動と居住形態』(16.5刊行、六一書房)を刊行した。さらに15年度からは、科研費基盤研究(B)「現生人類の出現と拡散に果たしたアジア南周ルート上の意義に関する考古学的研究」(15～18年度)プロジェクトを開始した。関連して、『科学』17年5月号に、「特集: よみがえる先史沖縄の人びと: 世界最大級の更新世人骨出土遺跡の発掘」を編み、石垣島白保竿根田原洞穴遺跡の調査成果をまとめた。さらに科研費挑戦的萌芽研究「浜北旧石器人骨出土血の再調査」プロジェクト(16～17年度)の研究分担者として、浜北根堅遺跡の調査に携わった。また研究課題(2)(3)については、東北芸術工科大学と共同研究を実施した。いずれも当初の研究計画をおおむね遂行できたと考えている。

上記研究課題とは別に、科研費基盤研究(B)(海外学術)「先住民族考古遺産の管理・保管・所有権に関する国際比較研究」プロジェクト(17～19年度)に研究分担者として参加し、オーストラリアにおける現状調査を行った。

d 主要業績

(1) 著書

編著、佐藤宏之・山田哲・出穂雅実共編著、『晩氷期の人類社会: 北方狩猟採集民の適応行動と居住形態』、六一書房、2016.5

編著、佐藤宏之編、「特集: よみがえる先史沖縄の人びと～世界最大級の更新世人骨出土遺跡の発掘(『科学』6月号)」、岩波書店、2017.5

(2) 論文

佐藤宏之、「総論: 晩氷期の人類社会-北方狩猟採集民の適応行動と居住形態」、佐藤宏之・山田哲・出穂雅実編『晩氷期の人類社会: 北方先史狩猟採集民の適応行動と居住形態』、3-22頁、六一書房、2016.5

佐藤宏之、「更新世の日本列島における自然・資源環境の変動と人類行動の応答」『田中良之先生追悼論文集 考古学は科学か』、199-214頁、同刊行会、2016.5

岩瀬彬・夏木大吾・山田哲・佐藤宏之、「北見市吉井沢遺跡の忍路子型細石刃核を伴う石器群の使用痕分析(2): ブロック3を対象とした分析」『旧石器研究』12号、83-98頁、日本旧石器学会、2016.5

- Sato, H., Pleistocene to Holocene archaeology in the Japanese Archipelago: an overview. In M. Kornfeld, M.L. Larson, Y. Lee, J. Woo and M. Cory (eds.) *Proceedings of the 21th Suyanggae and Her Neighbors International Symposium Suyanggae and Hell Gap*. pp. 170-181. 2016.7
- Iwase, A., H. Sato, Yamada, S. and D. Natsuki, A use-wear analysis of the Late Glacial Microblade assemblage from Hokkaido, Northern Japan: A case study based on the Yoshiizawa site. *Journal of Japanese Archaeology*, 4(1): 3-28, 2016.9
- Sato, H., Recent advances of the Japanese Lower and Middle Paleolithic research. In *Proceedings of the International Symposium on the Paleolithic of Vietnam in a regional context*. pp. 29-45, The Institute of Archaeology, Vietnam Academy of Social Sciences, Institute of Archaeology and People of Committee of Gia Lai Province, Department of Culture, Sports and Tourism, Vietnam. 2016.10
- 佐藤宏之、「現生人類アジア拡散研究の最前線」大沼克彦・久米正吾編『キルギスとその周辺地域における遊牧社会の形成』2016年度科学研究費基盤研究(B)海外学術調査「ユーラシア古代遊牧社会形成の比較考古学(課題番号: 25300040) 論文集」21-28頁、同研究班、2017.1
- 佐藤宏之、「過去の人類活動の確かな証拠をあつかう考古学」『科学』87巻2号、181-183頁、岩波書店、2017.2
- 佐藤宏之、「日本列島の中期/後期旧石器時代移行期に関する再検討」『ラーフィダーン』38号、55-60頁、東京、2017.3
- 佐藤宏之、「列島の中の八戸—先史時代、なぜムラができ消えたか?—」『環境動態を視点とした地域社会と集落形成に関する総合的研究』平成24~28年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業研究成果報告書、93-98頁、東北芸術工科大学東北文化研究センター、2017.3
- 佐藤宏之、「旧石器時代の埋葬: 白保竿根田原洞窟遺跡の埋葬行為を考える」『白保竿根田原遺跡確認調査報告書2 総括編』182-185頁、沖縄県立埋蔵文化財センター、2017.3
- 佐藤宏之、「白保竿根田原洞窟遺跡の考古学的成果」『科学』87巻6号、565-569頁、岩波書店、2017.5
- Sato, H. & D. Natsuki Human behavioral responses to environmental condition and the emergence of the world's oldest pottery in East and Northeast Asia: an overview. *Quaternary International*, 441: 12-28. 2017.5
- Kunikita, D., Wang, L., Onuki, S., Sato, H. & Matsuzaki, H. Radiocarbon dating and dietary reconstruction of the Early Neolithic Houtaomuga and Shuangta sites in the Song-Nen Plain, Northeast China. *Quaternary International*, 441: 62-68. 2017.5
- 佐藤宏之、「赫哲の居住と生業—北方獵漁民の民族考古学—」安斎正人編『理論考古学の実践』同成社、421-450頁、2017.6
- 佐藤宏之、「アジアの後期旧石器時代開始期研究の現状と課題: スヤング遺跡第6地点第3・4文化層石器群を考える」『韓国旧石器学報』35号、5-20頁、韓国旧石器学会、2017.6
- 佐藤宏之、「北方獵漁民が使っていた舟: 北東アジア・台湾・北アメリカの例」『科学』87巻9号、870-874頁、岩波書店、2017.9
- Izuho, M., Ferguson, J.R., Vasilevski, A., Grishchenko, V., Yamada, S., Oda, N., Sato, H. Obsidian sourcing analysis by X-ray fluorescence (XRF) for the Neolithic sites of Slavnaya 4 and 5, Sakhalin Islands (Russia). *Archaeological Research in Asia*, dx.doi.org/10.1016/j.ara.09.002, Elsevier. 2017.10
- Грищенко, В. А., Фукуда, М., Василевский, А. А., Онуки, Ш., Сато, Х., Куникита, Д., Кумаки, Т., Можаяев, А. В., Перегудов, А. С., Пашенцев, П. А., Учидо, К., Морисаки, К., Якушиге, М., Натсуки, Д., Ямашита, Ю. Новые исследования Поселения Адо-Тымово 2 (результаты работ совместной российско-японской экспедиции 2014–2015 гг.). *Археология Circum-Pacific: Памяти Игоря Яковлевича Шевкомуда*. Тихоокеанское издательство Рубеж, Владивосток. 2017
- Morisaki, K., Izuho, M. and Sato, H. Human adaptive responses to environmental change during the Pleistocene-Holocene transition in the Japanese Archipelago. In E. Robinson and F.S. Sellet (eds.) *Lithic Technological Organization and Paleoenvironmental Change: Global and Diachronic Perspective*, pp. 91-122, Springer. 2018.1
- 佐藤宏之、「ロシア極東・中国東北部における民族考古学」『考古学ジャーナル』708号、25-28頁、ニュー・サイエンス社、2018.2
- Morisaki, K., Kunikita, D. and H. Sato Holocene climatic fluctuation and lithic technological change in northeastern Hokkaido (Japan). *Journal of Archaeological Science: reports* 17: 1018-1024. 2018.3
- 尾田識好・森先一貴・岩瀬彬・山崎健・佐藤宏之、「旧石器・縄文時代移行期研究における前田耕地遺跡の意義」『研究論集』XXXII集、57-71頁、東京都埋蔵文化財センター、2018.3
- (3) 書評
- 佐藤宏之、関根達人著『モノから見たアイヌ文化史』、『季刊考古学』138号、90頁、2017.2

(4) 学会発表

- 国内、佐藤宏之、「趣旨説明」、第 82 回日本考古学協会総会セッション: 博物館法をはじめとする関連法等の改正後の博物館・美術館のありかた(企画: 佐藤宏之)、東京学芸大学、2016.5.29
- 国内、佐藤宏之、「討論・司会」、第 82 回日本考古学協会総会セッション: 東日本大震災対策特別委員会の 5 年間の活動—復興調査支援の取り組みと調査成果の還元および残された課題、東京学芸大学、2016.5.29
- 国際、Sato, H. “Obsidian procurement and circulation in Upper Paleolithic Hokkaido, northern Japan” Interantional Symposuim: The Archaeology of obsidian and flint, Thetford, England, 2016.7.15
- 国際、Sato, H. “Pleistocene to Holocene archaeology in the Japanese Archipelago” 21th International Symposium: Suyanggae and Her Neighbors, Laramie, Wyoming, USA, University of Wyoming, 2016.7.29
- 国際、Noguch, A., Sato, H., Nagasaki, J., & Korisettar, R., “The origin of beads making of South Asia: technological reassessment of beads from Jwalapuram 9, Andhra Pradesh, South India” 第 8 回世界考古学会議京都大会、同志社大学、2016.8.28
- 国際、Sato, H. “Recent advances of the Japanese Lower and Middle Paleolithic research. International Workshop, Paleolithic of Vietnam in a regional context, Gia Lai, Vietnam, 2016, Pleiku city, Gia Lai Province, Vietnam、2016.10.31
- 国内、佐藤宏之、「現生人類拡散南周りルートに関する研究の現状と課題」基盤研究 B「現生人類文化の出現と拡散に果たしたアジア南回りルートの意義に関する考古学的研究」研究集会、東京大学、2017.2.17
- 国内、夏木大吾・山田哲・中村雄紀・廣松晃一・吉留晃平・太田圭・増子義彬・佐藤宏之・熊木俊朗、「北海道北見市吉井沢遺跡第 10 次発掘調査」、第 18 回北アジア調査研究報告会、札幌学院大学、2017.2.8
- 国内、佐藤宏之、「現生人類アジア拡散研究の現状:IUP・細石刃技術・礫器剥片石器群」、第 18 回北アジア調査研究報告会、札幌学院大学、2017.2.8
- 国内、大貫静夫・佐藤宏之・國木田大・夏木大吾、「北アジアにおける新石器化についての研究—2016 年度—ザバイカルにおける更新世・完新世移行期の研究」第 18 回北アジア調査研究報告会、札幌学院大学、2017.2.8
- 国内、佐藤宏之・夏木大吾、「東・北東アジアにおける土器出現期研究の現状」、2016 年度北海道旧石器文化研究会、北海道大学、2017.3.19
- 国内、夏木大吾・太田圭・増子義彬・青木要佑・熊木俊朗・佐藤宏之・國木田大・本吉春雄、「2016 年度遠軽町タチカルシュナイ M-1 地点の調査成果と展望」2016 年度北海道旧石器文化研究会、北海道大学、2017.3.19
- 国内、稲田孝司・佐藤宏之、「白保竿根田原洞穴遺跡の考古学的検討」、第 83 回日本考古学協会総会研究発表セッション: 白保竿根田原洞穴遺跡の調査と研究、大正大学、2017.5.28
- 国内、佐藤宏之、「日本列島の中期/後期旧石器時代移行期」、公開シンポジウム『日本列島と西アジア』、JP タワー学術総合ミュージアム・インターメディアテク、2017.6.17
- 国内、海部陽介・佐藤宏之・後藤 明・池谷信之、「旧石器時代の航海—その謎にどう迫るか?」、第 15 回日本旧石器学会総会・研究発表、慶應義塾大学、2017.7.1
- 国内、下岡順直・佐藤宏之・Ravi Korisettar・野口淳・長崎潤一・高屋敷飛鳥・舟木太郎、「インド、ジュワラプラーム遺跡群における光ルミネッセンス年代測定の試み」第 15 回日本旧石器学会総会・研究発表、慶應義塾大学、2017.7.1
- 国内、夏木大吾・國木田大・佐藤宏之・青木要佑・太田圭・増子義彬・熊木俊朗・本吉春雄、「北海道遠軽町タチカルシュナイ遺跡 M-1 地点出土の縄文時代草創期石器群」、第 15 回日本旧石器学会総会・研究発表、慶應義塾大学、2017.7.1
- 国内、佐藤宏之、「旧石器時代人骨が出土する世界の遺跡とその評価」、沖縄考古学会・沖縄県立埋蔵文化財センター共催シンポジウム『白保竿根田原洞穴遺跡を考える』、沖縄県立埋蔵文化財センター、2018.2.18
- 国内、大貫静夫・佐藤宏之・國木田大・夏木大吾、「北アジアにおける新石器化についての研究—2017 年度— 沿バイカルにおける更新世・完新世移行期の研究—」、第 19 回北アジア調査研究報告会、東京大学、2018.3.10
- 国内、夏木大吾・太田圭・池山史華・舟木太郎・佐藤宏之・國木田大・熊木俊朗・廣松晃一・山田哲・中村雄紀、「北海道北見市吉井沢遺跡の調査成果(第 11 次)」、第 19 回北アジア調査研究報告会、東京大学、2018.3.10
- 国内、佐藤宏之・夏木大吾・Kyaw Khaing、「ミャンマーにおける Anyathian」、第 19 回北アジア調査研究報告会、東京大学、2018.3.10

3. 主な社会活動

(1) 学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員

- 国内、考古調査士資格認定機構、資格審査委員長、2016.4～
- 国内、東京都文化財保護審議会、委員、2010.12～

国内、神奈川県文化財保護審議会、会長、2016.4～
国内、小平市、鈴木遺跡発掘調査総括報告作成委員会、座長、2013.7～
国内、沖縄県立埋蔵文化財センター、白保竿根田原洞穴遺跡調査指導委員会、委員、2014.4～2018.3
国内、山形県高島町、日向洞窟遺跡範囲確認調査検討委員会、委員長、2016.9～
国内、九州大学大学院人文科学研究院、外部評価委員、2017.9～2018.3

(2) 他機関での講義等

その他、放送大学、「考古学」、2016～
特別講演、国立科学博物館、「日本の独特な後期旧石器文化」ラスコー展記念講演会、2016.11.23
招待講演、“Pleistocene to Holocene Archaeology in the Japanese Archipelago”、Bryat State University(ブリヤート共和国ウラン・ウデ市)、2016.12.27
特別講演、川崎市民ミュージアム、「神奈川の歴史の始まり：考古学から見た日本列島における現代人の出現」「かがわの遺跡」展講演会、2017.1.7
特別講演、国立科学博物館、「北方狩猟民の舟：民族考古学的調査から」第5回「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」研究会、2017.1.29
その他、朝日カルチャーセンター新宿教室、「日本列島の後期旧石器時代研究の最前線」2017.7.14
その他、朝日カルチャーセンター新宿教室、「旧石器時代の人骨出土遺跡を掘る—白保竿根田原洞穴遺跡の調査とその成果」2017.7.28
特別講演、東京大学文学部、「日本列島の人類文化の起源を探る」オープンキャンパス、2017.8.3
特別講演、国立科学博物館、「津軽海峡」第6回「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」研究会、2017.9.1
その他、朝日カルチャーセンター新宿教室、「現生人類のアジア拡散」、2018.1.26
その他、朝日カルチャーセンター新宿教室、「日本列島の旧石器時代」、2018.2.23
その他、朝日カルチャーセンター新宿教室、「氷期の終了と縄文文化の始まり」、2018.3.16

(3) 学会

国内、日本第四紀学会、名誉会員候補者選考委員会委員、2016.1～2016.7
国内、日本旧石器学会、会長、2014.6～2018.7
国内、日本考古学協会、理事、2014.5～2018.5
国際、Asia Palaeolithic Association、副会長、2012.7～
国内、法政史学会、評議員、2008.6～
国内、日本第四紀学会、評議員、2007.8～2017.7